



米ドル建 オーストラリア債券オープン 毎月分配型

ケイマン諸島籍契約型外国投資信託／追加型(米ドル建て)

交付運用報告書

作成対象期間 第4期
(2015年3月1日～2016年2月29日)

その他記載事項

運用報告書(全体版)は代行協会のウェブサイト
(<http://www.sc.mufg.jp/>)の投資信託情報ページにて
電磁的方法により提供しております。

ファンドの運用報告書(全体版)は受益者のご請求により
交付されます。交付をご請求される方は、販売会社まで
お問い合わせください。

管理会社

**ルクセンブルク三菱UFJ
インベスターサービス銀行S.A.**

代行協会

**三菱UFJモルガン・スタンレー
証券株式会社**

受益者のみなさまへ

毎々、格別のご愛顧にあずかり厚くお礼申し上げます。

さて、米ドル建 オーストラリア債券オープン
毎月分配型(以下「ファンド」といいます。)は、
このたび、第4期の決算を行いました。

ファンドの投資目的は、UBS 豪ドル・債券・
インカム(以下「投資先ファンド」といいます。)
への投資を通じて、中長期的に安定したイン
カム・ゲイン(利子収入等)およびキャピタル・
ゲイン(売買益等)の獲得を目指すことにあり
ます。当期につきましてもそれに沿った運用
を行いました。ここに、運用状況をご報告申し
上げます。

今後とも一層のお引立てを賜りますよう、
お願い申し上げます。

第4期末	
1口当たり純資産価格	0.006369米ドル
純資産総額	7,924,945.97米ドル
第4期	
騰落率	-8.88%
1口当たり分配金合計額	0.000250米ドル

(注1) 騰落率は、税引前の分配金を分配時に再投資したものとみな
して計算しています。以下同じです。

(注2) 1口当たり分配金額は、税引前の分配金額を記載しています。
以下同じです。

◀ 運用経過 ▶

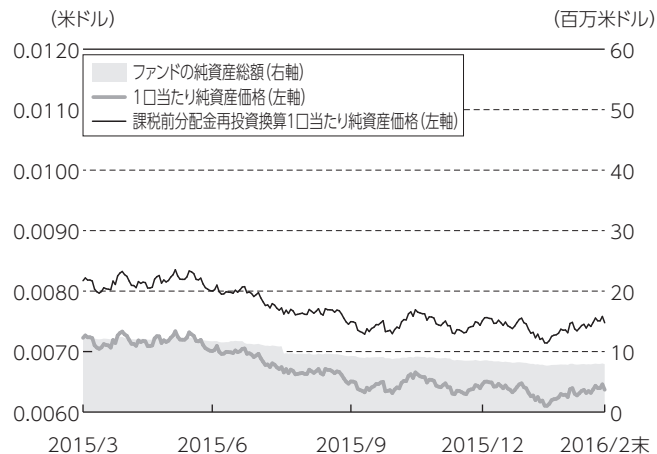
【当期の1口当たり純資産価格等の推移について】

(注1) 課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格は、公表されている1口当たり純資産価格に各収益分配金(課税前)をその分配を行う日に全額再投資したと仮定して算出したもので、ファンド運用の実質的なパフォーマンスを示すものです。以下同じです。

(注2) 課税前分配金再投資換算1口当たり純資産価格は、運用開始日(2012年8月3日)の受益証券1口当たり純資産価格を起点として計算しています。以下同じです。

(注3) ファンドの購入価額により課税条件は異なりますので、お客様の損益の状況を示すものではありません。

(注4) ファンドにベンチマークは設定されていません。



第3期末の1口当たり純資産価格：	0.007256米ドル
第4期末の1口当たり純資産価格：	0.006369米ドル
第4期中の1口当たり分配金合計額：	0.000250米ドル
騰落率：	-8.88%

■ 1口当たり純資産価格の主な変動要因

投資先ファンドにおいて、当期は、期を通じて豪州債券価格が上昇(金利は低下)したことが純資産価格の上昇に寄与しました。

当期は、期を通じて豪ドル安米ドル高が進行したことが純資産価格の下落に影響しました。

投資先ファンドとベンチマークの騰落率の状況および要因について

当期の投資先ファンドのリターンは、投資先ファンドのベンチマークであるブルームバークオーストラリア債券(総合)インデックス(Bloomberg AusBond Composite0+ Yr Index) (以下「ベンチマーク」といいます。)のリターンを下回りました。

当期を通じてイールドカーブの平坦化を見込んだポジションを維持したことは概ねパフォーマンスにプラスとなりました。また、個別銘柄選択はプラス要因となりました。一方で、2015年5、6月に世界的に金利が急上昇し、イールドカーブが傾斜化した局面において、イールドカーブの平坦化を見込んだ戦略はマイナスとなりました。また、管理運営費用が投資先ファンドの基準価格から差し引かれたことも、ベンチマーク対比ではマイナスとなりました。

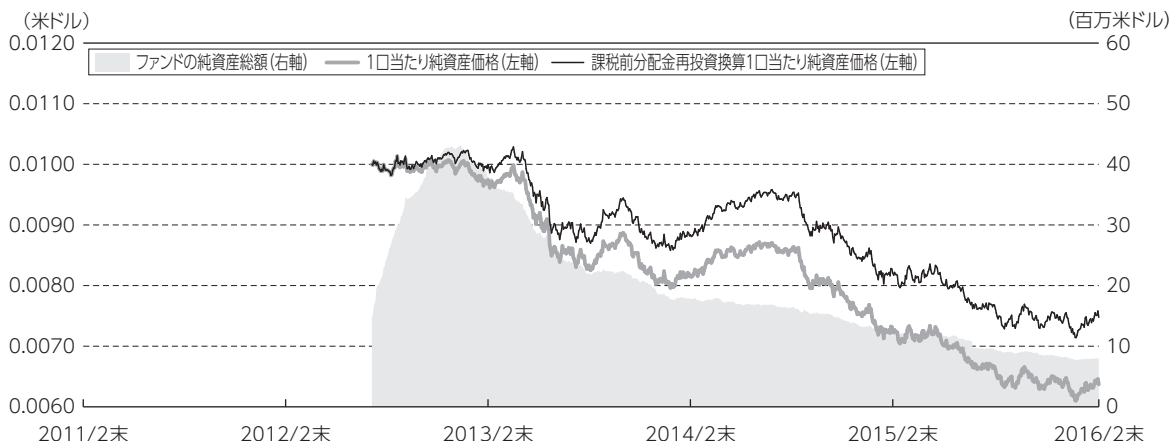
【費用の明細】

項 目	項目の概要	
管理報酬(副管理報酬を含みます。)、保管報酬および管理事務代行報酬	合計で純資産総額の年率0.10%	管理報酬(副管理報酬を含みます。)、保管報酬および管理事務代行報酬は、それぞれ、信託証書に定める管理会社としての業務、保管契約に定めるファンド資産の保管業務および管理事務代行契約に定める管理事務代行業務の対価として、ルクセンブルク三菱UFJインベスターサービス銀行S.A.に対し支払われます。
販売報酬	純資産総額の年率0.50%	販売報酬は、投資者からの申込または買戻請求を管理会社に取り次ぐ等の業務の対価として、日本における販売会社に支払われます。
代行協会員報酬	純資産総額の年率0.05%	代行協会員報酬は、受益証券1口当たり純資産価格の公表を行い、また受益証券に関する目論見書、決算報告書その他の書類を日本における販売会社に送付する等の業務の対価として、代行協会員に支払われます。
投資顧問報酬	純資産総額の年率0.10%	投資顧問報酬は、投資顧問契約に定める投資顧問業務の対価として、投資顧問会社に支払われます。
受託報酬	純資産総額の年率0.01% (最低年間10,000米ドル)	受託報酬は、信託証書に定める受託業務の対価として、受託会社に支払われます。
その他の費用(当期)	1.83%	ファンドの設立に係る専門家による業務等ならびに弁護士に支払う開示書類の作成・届出業務等および監査人等に支払う監査業務等の役務の対価として支払われます。

(注1)各報酬については、目論見書に定められている料率または金額を記載しています。「その他の費用(当期)」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、当期のその他の費用の金額をファンドの当期末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

(注2)各項目の費用は、ファンドが組み入れている投資先ファンドの費用を含みません。

【最近5年間の1口当たり純資産価格等の推移について】



		第1期末 2013年2月末日	第2期末 2014年2月末日	第3期末 2015年2月末日	第4期末 2016年2月末日
1口当たり純資産価格	(米ドル)	0.009740	0.008169	0.007256	0.006369
1口当たり分配金額	(米ドル)	0.000252	0.000468	0.000360	0.000250
騰落率	(%)	-0.10	-11.54	-7.15	-8.88
純資産総額	(米ドル)	37,944,618.22	17,819,853.69	12,390,108.50	7,924,945.97

【投資環境について】

当期の豪州債券価格は上昇(金利は低下)しました。

期初は、中国経済への懸念、資源価格の下落、米国の早期利上げ観測の後退、豪州中央銀行(RBA)による利下げ観測などから金利が低下基調となり、豪州債券市場は上昇しました。その後は、豪州の良好な雇用統計、消費者物価指数(CPI)が市場予想を上回ったことなどが豪州債券利回りの上昇要因となり豪州債券市場は下落しました。期の半ばにかけては、ギリシャの債務問題についての懸念や豪州の主要輸出品である鉄鉱石の価格が下落したこと、RBAの追加利下げに関する示唆、8月の中国人民元切り下げ、資源価格の下落などから豪州債券価格は上昇を続ける展開となりました。期の後半に入ると、米国の利上げ見送りや中国経済への懸念の高まり、豪州の利下げ観測が高まったことなどを背景として、豪州債券価格は引き続き上昇しました。11月以降は、米国で利上げが行われる見通しが高まったこと、豪州で失業率の低下などが確認され利下げ観測が後退したことなどを背景として、豪州債券価格は一時下落しましたが、期末にかけては、資源価格の続落、中国の景気見通し悪化懸念が増大したこと、豪州で雇用者数の減少幅拡大が確認されたことなどを背景として豪州債券価格は再び上昇し、前期末比で債券価格が上昇して期を終える展開となりました。

豪ドル/米ドル市況は下落(豪ドル安米ドル高)しました。

期初から2015年9月上旬にかけては、RBAによる追加利下げ観測の高まりや、資源価格の下落、中国経済に対する懸念の強まりなどを背景に、豪ドルは米ドルに対して下落しました。その後は、強弱入り混じる展開となり期末まで概ね横ばいで推移し、期を通してみると豪ドル安米ドル高が進行しました。

【ポートフォリオについて】

以下は、投資先ファンド(UBS豪ドル・ボンド・インカム)に関する報告です。なお、ファンドは、豪ドル建ての投資先ファンドに投資するため、豪ドルの対米ドル為替レートの変動による影響を受けます。

2015年3月1日～2015年3月31日

投資先ファンドは、デュレーションをベンチマークに対しニュートラルとし、イールドカーブの若干の平坦化を見込んだポジションを取りましたが、両戦略とも投資先ファンドのリターンに対する寄与は概ねフラットとなりました。一方、個別銘柄選択が投資先ファンドにプラス寄与しました。

2015年4月1日～2015年6月30日

投資先ファンドは、デュレーションをベンチマークに対してニュートラルに維持しました。投資先ファンドのイールドカーブ戦略では、平坦化を見込んだポジションを取りましたが、5月～6月は世界的に金利が急上昇し、イールドカーブが傾斜化したことから、当四半期のイールドカーブ戦略は投資先ファンドにマイナス寄与となりました。一方、6月後半の国際機関債のスプレッドの拡大を受け、国際機関債をアンダーウエイトとした投資先ファンドの戦略はリターンに寄与しました。

2015年7月1日～2015年9月30日

当四半期の投資先ファンドのデュレーション戦略については、7月～8月は、ベンチマークに対してニュートラルを維持した後、9月に入り短期化しました。9月の米連邦公開市場委員会(FOMC)の開催が近づいたこと、豪州の消費者信頼感および企業信頼感が首相の交代により上昇することを織り込んで、豪州国債の短期債利回りが上昇したため、当期の投資先ファンドのデュレーション戦略はプラス寄与となりました。投資先ファンドのイールドカーブ戦略については、当期はイールドカーブが平坦化したことから、平坦化を見込んだポジションを維持したことがプラス寄与となりました。また、投資先ファンドの銘柄選択もプラスとなりました。

2015年10月1日～2015年12月31日

当四半期の投資先ファンドのデュレーション戦略については、10月～11月中旬までは、ベンチマークに対してニュートラルとし、11月後半～12月は、デュレーションを長期化しました。当四半期の投資先ファンドのデュレーション戦略はプラス寄与となりました。投資先ファンドのイールドカーブ戦略については平坦化を見込んだポジションを維持しました。当期は長期債のパフォーマンスが短期債を上回ったことから、投資先ファンドのイールドカーブ戦略はプラス寄与となりました。

2016年1月1日～2016年1月31日

投資先ファンドのデュレーション戦略については、長期化した水準からスタートし、月の後半に長期化幅を拡大しました。このデュレーションを長期化したポジションが、投資先ファンドのリターンにプラス寄与しました。また、長期債のパフォーマンスが短期債を上回ったことから、イールドカーブの平坦化を見込んだポジションも投資先ファンドにプラス寄与となりました。

2016年2月1日～2016年2月29日

当該月は、調整を加えながらも投資先ファンドのデュレーションの長期化を維持しました。投資先ファンドのデュレーション戦略は、概ねプラス寄与となりました。また、長期債のパフォーマンスが短期債を上回ったことから、イールドカーブの平坦化を見込んだポジションも投資先ファンドにプラス寄与となりました。投資先ファンドの銘柄選択もプラス寄与となりました。

【分配金について】

当期(2015年3月1日～2016年2月29日)の1口当たり分配金(税引前)はそれぞれ下表のとおりです。なお、下表の「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」は、当該分配落日における1口当たり分配金額と比較する目的で、便宜上算出しているものです。

(金額:米ドル)

分配落日	1口当たり純資産価格	1口当たり分配金額 (対1口当たり純資産価格比率 ^(注1))	分配金を含む1口当たり 純資産価格の変動額 ^(注2)
2015/3/18	0.007065	0.000030 (0.42%)	-0.000160
2015/4/20	0.007252	0.000020 (0.28%)	0.000207
2015/5/18	0.007285	0.000020 (0.27%)	0.000053
2015/6/18	0.007005	0.000020 (0.28%)	-0.000260
2015/7/21	0.006644	0.000020 (0.30%)	-0.000341
2015/8/18	0.006673	0.000020 (0.30%)	0.000049
2015/9/18	0.006500	0.000020 (0.31%)	-0.000153
2015/10/19	0.006591	0.000020 (0.30%)	0.000111
2015/11/18	0.006295	0.000020 (0.32%)	-0.000276
2015/12/18	0.006327	0.000020 (0.32%)	0.000052
2016/1/19	0.006105	0.000020 (0.33%)	-0.000202
2016/2/18	0.006347	0.000020 (0.31%)	0.000262

(注1)「対1口当たり純資産価格比率」とは、以下の計算式により算出される値であり、ファンドの収益率とは異なる点にご留意ください。

対1口当たり純資産価格比率(%)=100×a/b

a=当該分配落日における1口当たり分配金額

b=当該分配落日における1口当たり純資産価格+当該分配落日における1口当たり分配金額

(注2)「分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額」とは、以下の計算式により算出されます。

分配金を含む1口当たり純資産価格の変動額=b-c

b=当該分配落日における1口当たり純資産価格+当該分配落日における1口当たり分配金額

c=当該分配落日の直前の分配落日における1口当たり純資産価格

(注3)2015年3月18日の直前の分配落日(2015年2月18日)における1口当たり純資産価格は、0.007255米ドルでした。

《今後の運用方針》

●今後の運用方針

今後も、投資先ファンドの投資方針に従って運用を行い、中長期的に安定したインカム・ゲイン(利子収入等)およびキャピタル・ゲイン(売買益等)の獲得を目指します。

《お知らせ》

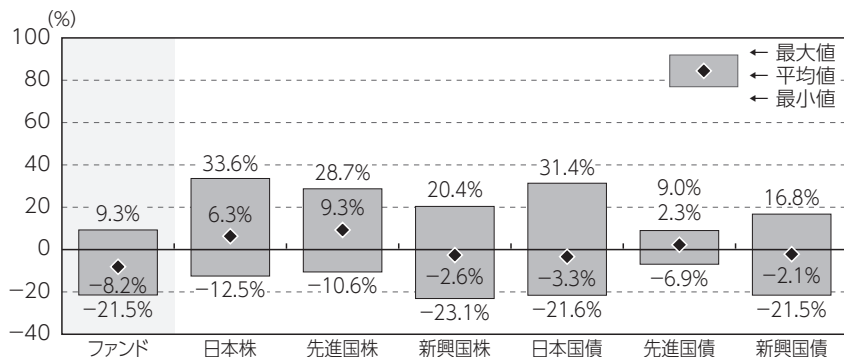
2016年5月1日付で、管理会社は、その名称をミツビシUFJグローバルカストディ・エス・エイからルクセンブルク三菱UFJインベスターサービス銀行S.A.に変更し、また、副管理会社は、その名称をエムユージーシー・ルックス・マネジメント・エス・エイからMUFGルクスマネジメントカンパニーS.A.に変更しました。

《ファンドの概要》

ファンド形態	ケイマン諸島籍契約型外国投資信託／追加型	
信託期間	ファンドは、平成24年8月3日より運用を開始し、管理会社が受託会社と協議の上、その裁量により存続期間の延長を決定しない限り、平成32年7月31日に終了します。ただし、平成32年7月31日より前に、投資先ファンドが終了した場合、受益者集会の特別決議が可決された場合、または、管理会社が、受託会社と協議の上、その独自の裁量により、ファンドの継続が現実的でなく、望ましくなく、または受益者の利益に反すると決定した場合等の一定の場合、ファンドは終了することがあります。	
運用方針	ファンドの投資目的は、投資先ファンドへの投資を通じて、中長期的に安定したインカム・ゲイン(利子収入等)およびキャピタル・ゲイン(売買益等)の獲得を目指すことにあります。	
主要投資対象	ファンド	UBS 豪ドル・ボンド・インカム
	UBS 豪ドル・ボンド・インカム	豪ドル建ての投資適格の公社債(国債、政府機関債、準政府債(州政府債)、国際機関債、社債、ABS(アセット・バック証券)およびMBS(モーゲージ証券)等を含みます。)
ファンドの運用方法	ケイマン籍の投資信託である投資先ファンドに投資することにより運用します。	
分配方針	管理会社は、その裁量により、経費控除後の利子・配当等収益、売買益(評価益を含みます。)および分配可能な元本から、毎月18日(または、当該日が営業日でない場合には翌営業日)に分配を宣言することができます。分配金は、分配宣言から起算して4営業日以内に、受益者(日本における販売会社または販売取扱会社に受益証券の保管を委託している日本の投資者の保有する受益証券に関しては、日本における販売会社)に対して支払われます。	

(参考情報)

● ファンドと他の代表的な資産クラスとの年間騰落率の比較



(出所) 指数提供会社のデータを基にアンダーソン・毛利・友常法律事務所が作成

※ 全ての資産クラスがファンドの投資対象とは限りません。

※ ファンドについては2013年8月から2016年6月の、また、他の代表的な資産クラスについては2011年7月から2016年6月の5年間の各月末における直近1年間の騰落率の最大値・最小値・平均値を、ファンドおよび他の代表的な資産クラスについて表示したものです。

※ このグラフは、ファンドと他の代表的な資産クラスを定量的に比較できるように作成したものです。

<各資産クラスの指数>

日本株 … 東証株価指数 (TOPIX) (配当込)

先進国株 … MSCI-KOKUSAI指数 (配当込) (米ドルベース)

新興国株 … MSCIエマージング・マーケット・インデックス (配当込) (米ドルベース)

日本国債 … シティ日本国債インデックス (米ドルベース)

先進国債 … シティ世界国債インデックス (除く日本、ヘッジなし) (米ドルベース)

新興国債 … JPモルガン・ガバメント・ボンド・インデックス・エマージング・マーケット・グローバル・ディバースファイド (米ドルベース)

※ 日本株の指数は、各月末時点の為替レートにより米ドル換算しています。

《ファンドデータ》

【ファンドの組入資産の内容】

● 組入上位資産

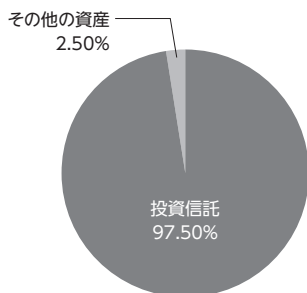
(組入銘柄数: 1銘柄)

(2016年2月29日現在)

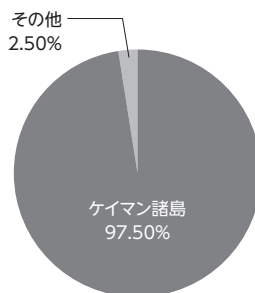
	組入比率
UBS AUD BOND INCOME	97.50%

(注) 組入比率は純資産総額に対する当該組入資産の評価額の割合です。以下の各グラフも同様です。

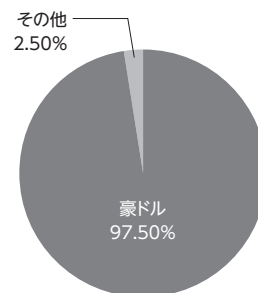
● 資産別配分



● 国別配分



● 通貨別配分



(注) 組入銘柄に関する詳細な情報等につきましては、運用報告書(全体版)に記載されています。

【純資産等】

第4期末	
純資産総額	7,924,945.97米ドル
発行済口数	1,244,257,252口
1口当たり純資産価格	0.006369米ドル

(単位: 口)

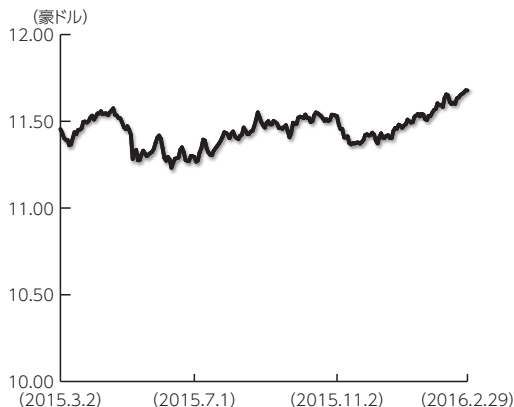
第4期中		
販売口数	買戻口数	発行済口数
94,170,959 (94,170,959)	557,475,681 (557,475,681)	1,244,257,252 (1,244,257,252)

(注) () の数は本邦内における販売、買戻しおよび発行済口数です。

【投資先ファンドの概要】(2015年3月1日～2016年2月29日)

UBS 豪ドル・債券・インカム

●クラスT受益証券1口当たり純資産価格の推移



●保有銘柄情報

(組入銘柄数: 33銘柄)

上位保有10銘柄	対純資産総額比率
EXPORT FINANCE & INSURANCE CORP	3.93%
WESTPAC BANKING CORP	3.93%
LANDWIRTSCHAFTLICHE RENTENBANK	3.78%
QPH FINANCE CO PTY LTD	3.70%
AUSTRALIAN CAPITAL TERRITORY	3.66%
KFW	3.66%
ALE DIRECT PROPERTY TRUST	3.59%
NATIONAL WEALTH MANAGEMENT HOLDINGS LTD	3.53%
METROPOLITAN LIFE GLOBAL FUNDING I	3.53%
UNITED ENERGY DISTRIBUTION PTY LTD	3.50%

(2016年2月29日現在)

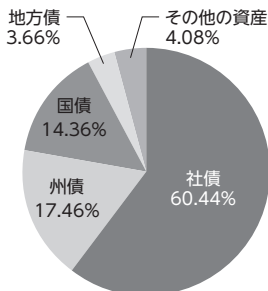
●費用の明細

(2015年3月1日～2016年2月29日)

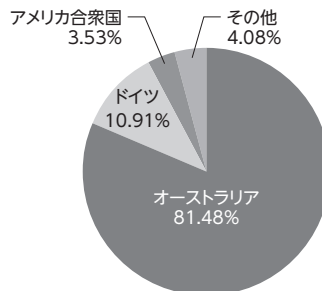
項目	項目の概要
投資運用報酬	クラスA受益証券およびクラスS受益証券の純資産総額の年率0.475%ならびにクラスT受益証券の純資産総額の年率0.415%
受託報酬	純資産総額の年率0.01%(最低年間10,000米ドル)
管理報酬(副管理報酬を含みます。)、保管報酬および管理事務代行報酬	純資産総額(クラスT受益証券の純資産総額を除きます。)の年率0.10%
販売報酬	クラスA受益証券の純資産総額の年率0.50%
代行協会員報酬	クラスA受益証券の純資産総額の年率0.10%
その他の費用(当期)	1.15%

(注)各報酬については、投資先ファンドの目録見書に定められている料率または金額を記しています。「その他の費用」には運用状況等により変動するものや実費となる費用が含まれます。便宜上、左記期間のその他の費用の金額を投資先ファンドの左記期間末の純資産総額で除して100を乗じた比率を表示していますが、実際の比率とは異なります。

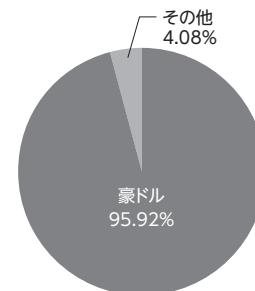
●資産別配分



●国別配分



●通貨別配分



(2016年2月29日現在)